日本クリスチャン・アシュラム連盟
Founded by Eli Stanley Jones　秋季号

日本アシュラム

AUTAMN 1990　United Christian Ashrams of Japan　72

開心・静聴・充満・献身・奉仕

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって。常に新しい地区（単位）の参加を期待している。

『震われない御国』を主題とした
第八回国際アシュラムの恵み

理事長　海老沢宣道

今世紀最大の宣教師、故スタンレー・ジョーンズ博士が、インドに伝道中、啓示を受けて、クリスチャンのアシュラムを始めてから今年は満六十年になるので、去る六月十三日から十七日まで、カナダのノバ・スコシヤ州ハリファクス市の美しい海の見える緑の丘の上に建つ、聖ビンセント山大学で、その記念祝会を兼ねて、第八回国際アシュラムが開かれた。

参加者は日本からの十名を含めて、世界の二十数カ国から約三五〇名の多数が集まり、米国やカナダのある地区からは、貸切バスできた群もあった。

主題は『震われない御国』（ヘブル書十二章二八）を中心に、御国を望みつつ全日程が進められた。

▼第一日（十三日）は夕刻まで登録受付の事務が行われ、夕食後大講堂で、歓迎式がカナダのバーンズ師の司会、マーシャル師の歌唱指導と演奏、各国々旗の入場、ハンター師が主な指導者を紹介、夜八時から開心の時が国際委員長マシウズ博士による「キリストに集中せよ」との奨励で始まり、一同の開心が続々と九時半前まであった。十一時から沈黙の時、連鎖祈祷に入り、第一日を終る。

▼第二日（六月十四日）は午前六時半起床、静聴の時（マシュウズ）朝食後、九時から聖書の時（スコットランド教会のマクドーガル牧師）にペテロ第一書二章について主の使信を示され、十時から活動報告はフィンランドのリトバ夫人とヒッチネン氏の証し、十一時からの福音の時には伝道者フェドラー師が「人々のニードの多様化した今日、教会もそれに対応する多様性を持つべきである。」と訴えられた。午後はボートでハリファクスの美しい湾内のツアー、四時半から祈りの細胞で分ち合の時を持ち、夕食後、七時半から立証の時にはユニス・マシウズ夫人（スタンレーの独り娘）が両親の思い出

記念感謝献金のお願い

日本アシュラム満35年記念の全国集会を開催するために諸経費が少く共金二〇〇万円を必要としていますので、同志の特別な御協力を切にお願い申上げます。

理事長　海老沢宣道
編集人　淵江淳一
発行人　大石嗣郎
定価　一部60円　〒60円

を、スウェーデンのクロンシオー氏がスタンレーのビデオ作製の苦労について語られた。夜八時半からの福音の時にはカマルソン師（ワールドビジョン副総裁）を迎え、『主イエスが来て、神の国が近づいたと言われ、それに入るように我らを招いておられるのに、単なる見物人、傍観者となってはいないか』と訴えられた。

その後、新作映画『アシュラムの経験』のプレミア映写があった。

▼第3日（六月十五日）朝の静聴の時が朝食のあと『聖書の時』はテネシー州ヒワセ大学教授のレインコック女史が担当『創始者スタンレーの説いた震われない御国に我らは今参与している幸いを思う。トルコ地方で初代教会の廃止を見、地上王国の滅亡の歴史を思う時、永遠の神の国を待望することの重要性を知らされる。ユダヤ人の期待したメシア王国ではなく、人間の組織を超えた主イエスの支配下に実現する新世界を求めよう。神の国は芥種のようなものであるが、やがて全ての人間を宿らせるもので、今その門が開かれている。』と語られた。

十時から分科会で、指導者養成、伝道、教会活動、児童、青年、地区、家庭の七部門についての話合いが熱心になされた。

『イエスは主である』

（ロマ書十章九節）
（コリント第一書十二章三節）

十一時から「活動報告」で南アフリカのヘンドリックス主教が、南アの問題を述べ、白人一に黒人二の割合であるが、何よりクリスチャンが真の弟子となるべきであると語った。続いて『福音の時』をカナダのハンター師が担当、イエスこそ主に在すことを力強く説かれ『多くの人はイエスを神のような人格と見ているが、スタンレーは神はイエスのようなお方であると言ったこと、人間の考える神でなく、神が啓示された主イエスから初めなければならないこと、自我を主に明け渡す時、個人も教会も再生し復活するのだ。』と、

午後は再びボートによる湾内のツアーと、祈りの細胞（分ち合い）の時があり、夕刻六時から、世界アシュラム六〇周年記念祝会の特別プログラムが展開された。七面鳥を主としたフルコースの晩餐会のあと、各国代表の祝辞と演出があり、日本は大石総勢の挨拶と吉沼せい姉の仕舞を披露、喝采を博した。

再びカマルソン師のメッセージがあって、個人の価値はいかなる社会的制度（教会）よりも重要であることが示され、再び万国旗の入場行進があり、（日本旗を渕江千代子姉、韓国旗を飯島庸江姉が携行）、次に六人の青年男女がアシュラム六〇年の歴史を十年毎に区切ったプラカードで、その回顧と展望についての解説をした。

▼第四日（六月十六日）朝の静聴はインド・サトタルからタイタス師の後任となるバーマ牧師が来て担当。午前の聖書の時は同様レインコック女史、十一時からの福音の時は、韓国ソウルのカン牧師が担当、まず説教台両側に日韓の両国旗を並立し、その間に大石牧師を招いて二人で肩を組み合い、親善の意を表明され、一同の拍手を受けた。次で同師は、韓国教会が断食と祈祷会を重視していること、聖書研究、小組活動、都市の伝道組織、殉教者の血を継承する平信徒の伝道熱から、この十数年で教会も信徒者も五倍になったこと、イエスを信じることと敵をも含めて全ての隣人を愛することの一致、日帝統治下の悪夢を忘れて日韓人は互いに赦し合い、愛し合わねばならない。主に在る平安のため祈れと訴えられた。午後はバスで大西洋アシュラム会場に移動して、祈りの細胞（分ち合い）を持った。

夕刻、本会議場の別室に日本茶道の席を設け、家内が和服でお手前を披露、飯島、若林、近藤の諸姉の補佐のもと、各国の関心ある数十名に茶菓を供して喜ばれた。同じ部屋の一隅には折り紙を展示、奥山牧師夫人にその折り方の実習をしてもらったところ、可成り多くの興味をひくことができた。

夕食後七時から音楽伝道の時間、七時半から立証の時として、ミネソタから車椅子で来たメリープレル夫人の伝道旅行の体験談があり、続いて日本代表として私が登壇、主イエスこそイムマヌエルの神なることを八十二年の生涯を通じての恵みをもって証しさせて貰った。このイエスを主と仰ぎ、従う所に神の国は実現すると語った。降壇すると、全会衆が総起立して拍手をしてくれたのには感激した。夜九時から医しの時が守られ伝道者カマルソン師のメッセージに続いて多くの人が前に進み出てひざまづき、祈ってもらっていた。この集会が終ったのは十一時を過ぎていたようである。

▼第五日（六月十七日）最後の聖日早朝七時から聖餐式がバーグ牧師の司式の下におごそかに守られ、シーマンズ博士のメッセージがあり、人種、国境、教派を超えて同一の主に贖われた民としての一体感が強く味わうことができた。その日の朝食は終始無言のうちにすませ、九時から祈りの細胞に分れ恵みを分ち合い、十時から聖日礼拝式を国際委員長のマシウズ博士の司会、カマルソン師の説教『神の家族』と題して、われら一同主により一切の罪から情めら

アシュラムの五大原則
（一）キリストへの明渡し
（二）御言への静聴と立証

好評・再版出来
海老沢宣道著
「アシュラムの原則と実際」

れた同胞であることを感謝しようと勧められた。十一時、いよいよ最後の『充満の時』もマシウズ師の司会で、今回受けた恵みの分ち合い、感謝が次々に延べられ、時間の不足を感じる有様であった。

▼国際委員会が開期中、昼食時にたびたび召集され十ヶ国の代表二十名が各国の状況や次回の開催について協議、第九回は一九九二年にスウェーデンで開く予定とした。

▼作詞コンテスト今回初めて国際アシュラムで歌うための作品募集が行われ、五名の作品の中に小生の『日本アシュラムの歌』が入選したことは光栄の至りで、第四日目十六日午後に日本からの参加者一同十名が壇上で一節を日本語で合唱し、二節以下を全会衆に英語で唱和してもらった。

▼以上で全日程を恵みのうちに終了し、再会を約して各国へ帰って行ったが、今回のアシュラムは特別記念祭であったため、聊か演出が華やかすぎた嫌いもあるが、世界の現状において殊にアジア、アフリカ、中南米からの参加者の間に、主に在る交わりが回復した意義は極めて大きいと見るべきであろう。

世界アシュラムの標語

（ピリピ書　第二章　十一節）

中路嶋雄師を追悼す

海老沢宣道

去る八月十九日朝、長くわがアシュラム連盟の副理事長として、日本アシュラム運動の進展のために貢献された、大阪扇町教会の名誉牧師中路嶋雄師が静かに九〇年の生涯を閉じられた。謹んで教会のための大いなる功績を偲び、御魂の平安を祈る次第である。

師は一九〇〇年に京都に生まれ、同志社の神学専門学校で学び、昭和三年に卒業、渡米してシカゴ、オベリンその他の諸大学で研学、扇町教会の牧会と共に数カ所で伝道し、多くの教会を創立、その何れにも付属幼稚園とか保育園を併設して地域への奉仕にも心を配り、大阪キリスト教短大、その他二三の学校の教授として子女の教育にも当り、スタンレー・ジョーンズ博士の来日伝道とアシュラム運動や訪問伝道には当初から共鳴参加し、訪伝全国連盟の委員長として長年奉仕され最近は顧問になっておられた。アシュラムでは関西支部長、兼連盟の副理事長として、第一回世界アシュラム大会が一九七二年六月にエルサレムで開かれた時はわが日本の代表者として出席、博士の車椅子からのメッセージに非常な霊感を受けて帰られた。

師は同胞教会の月報や、個人紙「地を嗣ぐ者」を委刊で暫く出版されたが、その他に「私の人間観」「私の罪悪観」「時満ちなば」「宗教の真理性」他、多くの著作があり、扇山と号して短歌を詠んでおられたことも思い出される。

（三）聖霊の啓導と充満
（四）教会への奉仕と伝道
（五）神の国の体験と献身

スタンレー博士に親しく指導を受けた著者がアシュラムの五大原則と守り方を平易に解説。

第八回アシュラムに参加して

飯島庸江

1985年のクリスマスの受洗に先立ち、奥多摩の古里で行われた第25回関東アシュラムに参加し、初めてニードの表明と隣人のために祈るという事を学んで、心身とともに大きなお恵みに与かった私は、翌年早春ジョージヤ州セント・サイモンズ島で行われた第六回国際アシュラムに先生方のお供をして初参加させて頂きました。それから早5年、今度はカナダのハリファックスでの第八回国際アシュラムに行かせて頂きました。

今回はクリスチャン・アシュラムがインドの地でスタンレー・ジョーンズ師によって開始されてより六十年目と言うおめでたい年に当るせいもあり、世界各地のアシュラム支部から大勢の人が参加しました。

先回の時は、洗礼をうけて間もなく、付いて行くのが精一杯という感じでしたが、今度は知らぬ間にイエスさまのみもとに引き寄せられたのでしょうか、ジョージヤでお会いした方々とも、アシュラムのお仲間として親しみを感ずる事ができました。

またカナダ各地の旅行中、かなりきついスケジュールでしたが、和やかな楽しい旅が出来たのは大変喜ばしい事でした。またナイヤガラ瀑布では、霧のおとめ号という小舟に乗って、流れに逆らって滝に近付き見物しましたが、午後で私達の後ろから日が射していたため、大きな美しい虹を見ることができました。

舟は滝の少し下流から出ますので、その時はまだ虹は見えませんが、舟が滝の前の水しぶきにさしかかると、虹が弧を描いて立ち始めます。そして舟が進むに従って伸び、やがて大きな半円以上の淡い繊細な虹が出来上がるのです。この美しい虹を眺めながら私は創世紀の神様のご契約の事を考えていました。

記念晩餐会と式典に臨席して

渕江千代子

「震われない御国」の主題のもとで開かれた晩餐会と式典は、三日目の夕方六時にバグパイプの招きの音楽に合わせて、各国衣装をまとった三五〇人が席に着くと花が一勢に咲いたようであった。各テーブルの中央には十字架の台の上に紫布が掛けられ、その上に黄金の王冠が置かれてあった。紫色のナプキンは「震われない御国」の金箔の文字が輝いていた。天国の祝宴がアシュラムの会場に下がって来たかのようであった。祝詞と祈りに続いて今まで貢献された方々へ感謝の言葉が述べられ、各国からのメッセージが披露された。パンを裂き、七面鳥のフルコースに舌づつみしながら主にある兄弟姉妹との親交を深めることが出来た。食後は「グローリハレルヤ」のマーチに合わせて、六名の若人が年号のプラカードを掲げ壇上に立った。続いて各国代表が民族衣装で旗の行進を行った、この時私も日本の着物を着て、配られたたすきと帽子をかぶって、日の丸の旗を高くかかげて壇の脇に立った。日本にもアシュラムの恵みが与えられた喜びを深くかみしめ、感謝で一杯の気持ちで立った。アシュラム六〇年の歩みがバーグ兄により解説された。一九三〇ー四〇年は、スタンレー博士が神から示され、アシュラムを創始した十年である。四〇ー五〇年はインドで育ったアシュラムの苗木を北米へ移植した十年である。この時期にはスタンレーは平和の使者として、日本との戦争をさけるため。ルーズベルト大統領と日本大使に働きかけていたのである。五〇ー六〇年は、NCC中央企画からローカルの草の根アシュラムに権限を托したことにより、指導者育成と共に発展を見た再建の十年である。六〇ー七〇年は新たなフロンティアへと進む拡張の十年である。一日アシュラムが各地で開かれ、更にフィンランド、スエーデン、英国、ドイツ、デンマーク、オランダ、日本、カリブ、ハワイと広まって行った。七〇ー八〇年はスタンレーの死による危機の年であった。しかし彼の天に召される前に国際アシュラムがエルサレムに於て始められ「イエスは主である。」の告白のもとに世界を一つにする霊的遺産を残され前進する希望を与えられた。八〇ー九〇年は、アシュラムを教会に紹介し定着せしめる十年であることを強調された。象徴的表現の多い式典であったが、出エジプト記の過き越しの儀式を思わせ解放の喜びを感謝した。

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を

全国アシュラム三五周年記念

▼教職アシュラム▲

全日本アシュラムを箱根アカデミー・ハウスにて了えた後、連盟ではD・P・タイタス師を迎えて、左記の如く教職アシュラムを計画している。

日時　一九九〇年九月二八日（金）
　　午前一〇時ー午後四時
会費　一〇〇〇円（当日会場持参）
会場　ー一五二　目黒区中央町一ー
　　二二ー一〇　碑文谷教会
申込先　大石嗣郎
　　〇三（七一二）五七五八

連盟では特にアシュラムに未経験な教職の参加を歓迎いたします。官製はがきにてお申込下さい。

三五周年記献金報告

七十号以后には通常には入金ありません。

以下は三五周年特別献金者（金額）順不同

田中　久代　一〇、〇〇〇
石谷　類造　一〇、〇〇〇
松田　洋好　三、〇〇〇
飯島　庸江　五〇、〇〇〇
菅原　虎夫　一〇、〇〇〇
鈴木　梓　三、〇〇〇
吉沼　勢以　一〇、〇〇〇
岡田　実　二〇、〇〇〇
小柴　資子　一〇、〇〇〇
河野　修　三〇、〇〇〇
田中　久代　一〇、〇〇〇
練馬開進教会　一〇、〇〇〇
桐生　喜代　一〇、〇〇〇
吉池　ミツ　一〇、〇〇〇
横浜岡村教会　一〇、〇〇〇
島　隆造　一〇、〇〇〇
大井さだ子　一〇、〇〇〇
田中　力　一〇、〇〇〇
平松　豊美　五、〇〇〇
桐生　久子　一〇、〇〇〇
阿部　納　五、〇〇〇
松原　向　一〇、〇〇〇
深谷教会　五〇、〇〇〇
高橋和歌子　三、〇〇〇
宇井　邦男　三、〇〇〇
宇都宮美江　二〇、〇〇〇
加藤　菫子　三、〇〇〇
熊　美枝子　五、〇〇〇
村井あつ子　二、〇〇〇
戸田　義雄　五、〇〇〇
原口　和子　五、〇〇〇
近藤　貞子　一〇、〇〇〇
中村　武　五、〇〇〇
坂井　正栄　五、〇〇〇
篠塚　ハマ　五、〇〇〇
飯島庸江（二回目）一〇、〇〇〇
今回合計　三八七、〇〇〇円
前回累計　三四三、〇〇〇円
総計　七三〇、〇〇〇円
一九九〇年八月三一日（大石）

東京都目黒区中央町1ー21ー10
碑文谷教会気付
日本クリスチャン・アシュラム連盟